

参加費無料



# 1964年東京オリンピックから半世紀 東京の都市デザインの軌跡

左側の写真「日本橋風景」(1962年頃) 写真提供：中央区立京橋図書館

右側の写真 現在の「日本橋」(2019年)

日時  
2019年 7月 29日 (月)  
18:00-20:00 受付開始 17:30

会場 日本橋浜町 F タワープラザ  
3階ホール (裏面参照)

申込 事前申込制 定員 120名  
(7月25日(木)まで申込受付。詳細は裏面参照)

1945年の東京大空襲で焼け野原となった東京。しかし、戦後の経済の高度成長とともに、東京は短期間のうちに再び世界に名立たる巨大都市としての復興を遂げました。その復興を加速させ、近代都市の骨格を形成する大きなきっかけとなったのが、1964年、アジアで初めて開催された東京オリンピックでした。そして、このオリンピックを境に、都市の近代化や新幹線・高速道路等の交通網など、さまざまなインフラ整備が国の発展を支えてきました。

それからすでに半世紀が経過した今日。インフラの老朽化が進み、社会経済状況等も大きく変化するなか、私たちはこれからの東京をどのようにデザインしていけば良いのでしょうか。今回のセミナーでは、折しも2度目のオリンピックを間近に控えたいま、半世紀前に描かれた東京の未来像を改めて確認し、未来に引き継ぐべき東京の姿を皆さんと一緒に考えたいと思います。

講師



北河 大次郎 氏 文化庁文化資源活用課 文化財調査官

【略歴】1992年東京大学土木工学科卒、1995年エコール・ナショナル・デ・ポンゼジョッセ（フランス国）DEA取得、1999年同大学博士号（国土整備・都市計画）取得。同年より文化庁勤務。その後、ICCROM（イタリア国）プロジェクトマネージャー、東京文化財研究所室長等を経て、現在文化庁文化資源活用課。2016年より土木学会が運営するオンライン土木博物館「ドボ博」館長。

【受賞歴】サントリー学芸賞、交通図書賞、土木学会論文奨励賞など

【主な著書】近代都市パリの誕生（河出書房新社）、図説近代日本土木史（鹿島出版会、共著）、建築と都市の保存再生デザイン（鹿島出版会、共著）など